



## 各教科の見方・考え方 ①

各教科のそれぞれの特質に応じた『見方・考え方』とは、その教科を学ぶことによってできるようになる発想や思考のことです。社会生活の中でより高い意思決定を行うにあたって必要となるものです。

その意味では、今学んでいることと未来の生活をつなぐものと考えることができ、何よりも、この「見方・考え方」こそが学ぶ理由なのです。

今回と次回で、文部科学省が今回の学習指導要領の改訂において16個にまとめられた各教科の「見方・考え方」を紹介していきます。

「数学的な見方・考え方」のようにおおよそ教科がわかるものがほとんどですが、国語については、「国語における見方・考え方」ではなく、「言葉による見方・考え方」と書かれています。全ての学びの土台になる「言葉」であるからだと思います。

Start!  
2023.4

金沢龍谷高等学校  
中等部はじまる。

### 【言葉による見方・考え方】

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること。

### 【社会的事象の地理的な見方・考え方】

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

### 【社会的事象の歴史的な見方・考え方】

社会的事象を、時間、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。

### 【現代社会の見方・考え方】

社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

### 【数学的な見方・考え方】

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統一的・発展的に考えること。

### 【理科の見方・考え方】

自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

### 【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

見えないからと言って

坂村真民

日の昇らない時が  
あつただろうか  
月の出ない時が  
あつただろうか  
見えないからと言って  
なかつたとは言えない  
それと同じく  
見えないからと言って  
神さまや  
仏さまが  
いないと誰が言えよう  
それは見る目を  
持たないからだ  
大宇宙には  
たくさん神や仏さまが居て  
この世を幸せにしよう  
日夜努力してられるのだ  
一輪の花の美しさを見たら  
一羽の鳥の美しさを見たら  
それがわかるだろう